

①焼山淨水場

焼山浄水場は、昭和24年(1949)に建設されました。蛭根配水場から送られてきた工業水道に、ろ過・塩素消毒を行い、旧国道に布設された配水管から、土崎・寺内地区へ給水していました。今は役目を終え、一部の設備はほぼ当時の姿で現存しています。



②東門院跡

東門院は、京都聖護院(天台修験の本山)末寺で四天王寺に属し、古四王社の神宮寺(神社に付属して建てられた寺院や仏堂)として管理していました。佐竹氏支配の時に東門院は聖護院と絆を切り、真言宗に転化しました。明治になって、神仏分離の結果古四王社として独立し、国弊小社に列せられました。

③旭ヶ木

推定樹齢約1,200年の巨木で、市内で1番古いと言われています。晉江真澄の「水のおもかげ」によると、昔この地域に住んでいた「旭」という長者の家の目印であったことから、この名前が付いたと言われています。明治19年(1886)の侯屋火事により、幹の一部が空洞化していますが、枯死を免れ徐々に樹勢を回復し、立派に葉を茂らせる生命力には驚かされます。昭和48年(1973)に市天然記念物に指定されました。



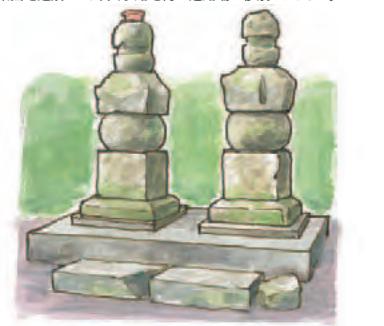
④田馬1号町跡

現在、外町の南に位置する馬口勞町は、寛永6年(1629)に寺内の前城から移された町です。昭和7年に前城に石碑を作りましたが、目立たなかったことから平成14年に馬口労町内会の方々が、石碑を人目の付かない場所から現在の後城道路沿いに建て直しました。



⑤二ツ五輪

文字が判別できないほど風化がすんだ石碑ですが、慶長19年(1614)に隣の藩主最上義光にそむき、土崎に隠れ住んでいた安彦左衛門尉蔵兄弟を菩提とする文字が読み取れます。はじめ雄物川を望む岸壁の上に建立しましたが、臨海道路や臨海工業団地造成により、大小路地内の道路端に移設されました。



⑥音江真澄翁の墓

江戸時代後期の紀行家・管江真澄は三河国(現愛知県)に生まれ、天明5年(1785)に秋田に入りました。その旅の記録と地誌類『管江真澄遊覧記』は、歴史や民俗研究の貴重な資料であり、重要文化財となっています。文政12年(1829)に仙北で没しましたが、遺言により、親交が深かった寺内田村神社・神主・兼田正家の墓域に葬られました。昭和37年に秋田市の史跡第1号に指定されています。



⑦伊藤永乃介の歌碑

伊藤永之介は秋田市出身の小説家。上級学校への進学がかなわぬ、銀行に勤めながら雑誌投稿を始めました。大正13年(1924)に同郷の金子洋文を頼って上京すると、「文芸戦線」などに評論、小説を発表し本格的に文筆活動を開始。農村を題材とした作品を多く執筆し、昭和11年(1936)に濁酒の密を題材とした「菴」が芥川賞候補となるなど、当時の文生産文学の一翼を担いました。戦後も社会主義作家クラブの中心的存在として活躍し、のちに映画化された「警察日記」などの作品を発表



⑧高清水雲泉

7世紀中頃、越国(現北陸地方)守の阿倍比羅夫が高清水岡に越王(古四王)を祀ったところ、突如湧き出したといわれる雲泉で、地名「高清水」の由来となりました。古四王神社の御手水として使用され、かつては周囲の清流にサンショウウオが生息するほど澄んだ水で、古代の武将が飲み水として利用したともいわれます。(※現在は飲み水として使用できません) 雲泉の傍らには聖観音立像が安置されており、訪れた人々によって雲水が捧げられ、今も大切にされています。

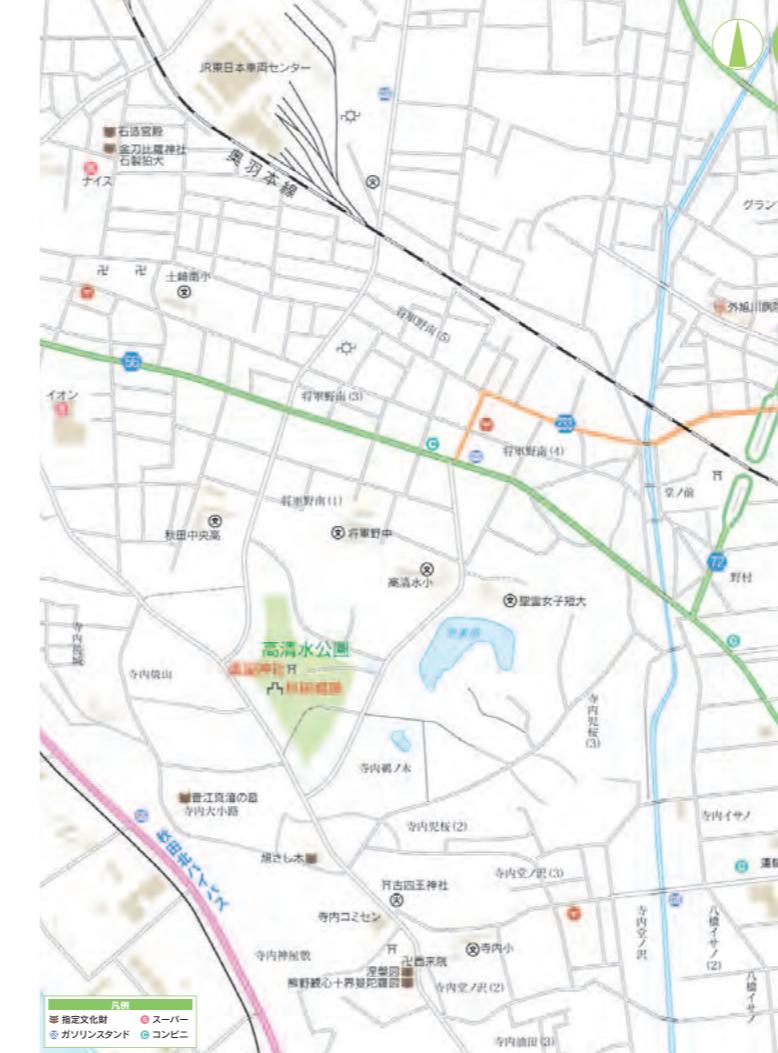


番号の位置(マップ表面)



⑨三吉神社遙殿

五輪坂(五輪の塔の北側)に建っています。戊辰の役の際、藩主義堯が赤沼の三吉神社に戦勝祈願をしたところ、靈験があり勝利したことから、秋田藩士中川伝也が土崎以北の住民の参詣の便を図り、明治4年(1871)この地に遙殿を建立しました。



しました。晩年の永之介が好んで記した言葉「山美しく人貧しい」と刻まれた歌碑は、昭和35年に建立されました。



⑩護田神社

明治2年(1869)に、秋田藩最後の藩主佐竹義堯が高清水の地に「招請社」として創建し、戊辰戦争の戦闘者の御靈を祀ったことに始まります。明治32年(1899)に久保田城跡に再建され、昭和15年に秋田県護国神社と改称し、旧社地である現在地に遷座。第2次大戦後の一時期、軍國主義施設として廃止されることを防ぐため、高清水宮と称し、「イサザギの命」イサザミの命を合祀しましたが、昭和27年(1952)には再び秋田県護国神社に改称されました。

⑪五輪ノ塔

寛永20年(1643)に、久保田の豪商森九蔵が建立了供養塔。灯りをともし、港に入りする船の目印にとて言われています。文化元年(1804)と同7年には地震で2度倒壊し、現在の塔は昭和42年(1967)に高清水公園内に復元された4代目です。この塔に至る坂道は五輪坂と呼ばれています。

⑫護田神社

秋田城外郭東門を出て、南方側にみえる古代の沼地。堆積していた泥炭層から、人面型土器や人形など、まじないに関わる遺物が多く発見されています。



⑭古代沼

秋田城外郭東門を出て、南方側にみえる古代の沼地。堆積していた泥炭層から、人面型土器や人形など、まじないに関わる遺物が多く発見されています。



鶴ノ木地区の外れで発見された奈良時代の水洗トイレです。立派な建物に水洗施設を備えた機能的な古代トイレは、現在のところ秋田城跡でしか確認されていません。



高清水丘陵の東南端、標高約30mに立地する縄文時代前期(約5,500年前)の貝塚。日本海側では数少ない貝塚の一つで、大木式土器様式の土器分布を考えるうえで貴重な遺跡です。



⑰越前谷人形工房

4代目越前谷さん曰く、一番大事なことはボーッと考えることだそうです。土崎曳山祭り間近の6、7月にしか見ることのできない、人形造りの風景です。



⑱田村神社

延暦22年(797)に古四王大神のお膝元に田村麻呂・将軍の宮を造営し、里人には大獄丸を射止めたものといわれる白羽の矢を本祀り、武神として崇め祀りました。



⑲古四王神社

創建は奈良時代にさかのぼりますが、詳細は不明。桓武天皇の延暦年間(782~806)に坂上田村麻呂が蝦夷平定の折、この宮に立ち寄り興奮したと伝えられています。聖武天皇の代に、諸

⑳田川街

高清水丘陵の東南端、標高約30mに立地する縄文時代前期(約5,500年前)の貝塚。日本海側では数少ない貝塚の一つで、大木式土器様式の土器分布を考えるうえで貴重な遺跡です。この地域は、現在はこざくらと呼んでいますが、古くは「ちござくら」と呼ばれていました。古四王宮大祭の時、稚児の舞が行われたところから、また稚兒(ひこ)という意味でたい花が咲いていたことが地名の由来であると言われています。



㉑秋田チケット



㉒西来院

曹洞宗少林山と号し、羅漢さんとも呼ばれています。もと藤倉にある補蛇寺2世良雄和尚の開居寺が廃絶したものを、寛政年間に秋田藩9代藩主佐竹義和がこの地に再興させました。神社の裏山は、三十三番参拝地となっており、境内には万魚供養碑、筆塚などの石碑が多く建立されています。寺宝に県指定有形文化財「涅槃図」と市指定有形民俗文化財「熊野觀心十界曼陀羅図」があります。

㉓石龍神社

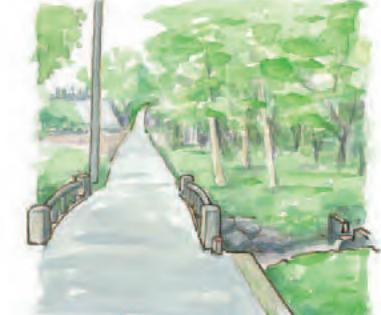
久保田藩の治水事業の責任者で、奥六群(現在の東北地方太平洋側)の水難を治めて功績があった那珂晃助は、都に行く途中、瀬田(大津)の龍神に度にわたくて本国の水難除けをお祈りしました。享保16年(1731)、那珂が藩に願って湯湯で手にした石龍をその地に祀ったのが神社の始まりとされています。神社の付近一帯は根岸山古墳と呼ばれていますが詳細は不明です。また、祠は古墳の石棺を利用したものだという説もありますが、定かではありません。

㉔仙台藩菊池碑

慶応2年(1866)7月4日に、奥羽白石同盟にもとづき、仙台藩から送られた特使・志茂又左衛門・副使山内富治ら11人が茶町(現秋田市大町)の宿舎の幸野屋と仙人屋で久保田藩主らに暗殺されました。明治3年(1870)に草生津川刑場に埋められていた11名の亡骸は戦後に掘り起され、西来院に改葬されました。明治21年(1888)10月に当時秋田市に在住していた宮城県人竹内貞寿を中心とした有志が、勝海舟の揮毫による慰靈碑を現在地に建立しました。

㉕伽羅橋

伽羅橋にまつわる伝説はいろいろありますが、その1つは、ある時浪速の舟人が夕暮れに火縄を振ってこの橋にさしかかったところ、火種を落としてしまい橋の一部を焦がしてしまいました。するとあたりより香りが漂ったので、船に木を積んで津の国(現在の大阪府や兵庫県周辺)へ行き、それを売って大いに利益をあげました。以来、この橋を伽羅橋(または香炉木橋)と呼ぶようになったということです。



まちあるきの注意点

※個人住宅や敷地には立ち入らないでください。

は、歴史の説明などが記されている
標柱や碑を表します。

は、石碑群を表します。

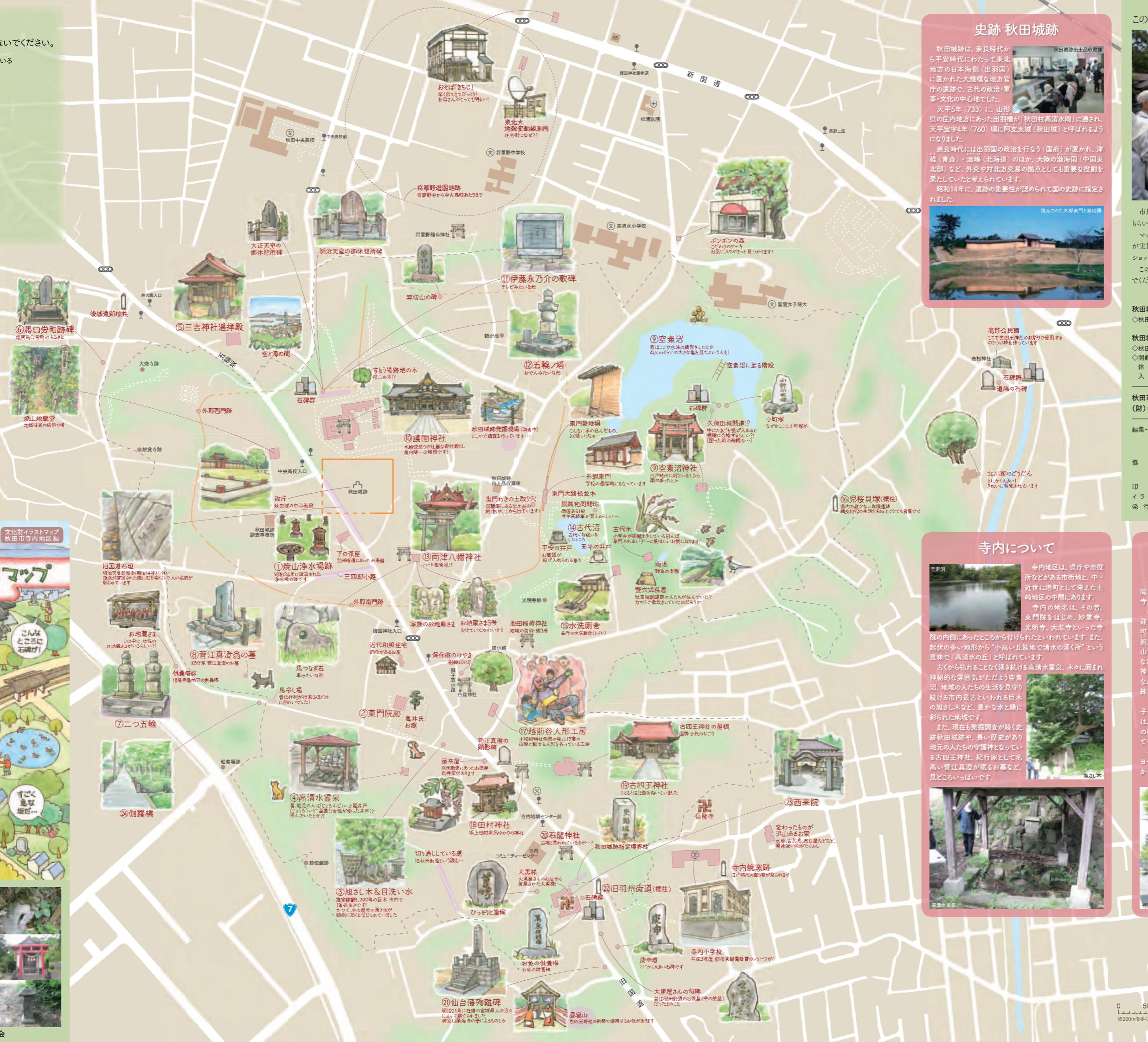
は、神社を表します。

は、標柱を表します。

秋田城跡政区画

秋田城跡外郭線

史跡秋田城跡指定境界線



史跡 秋田城跡

秋田城跡は、奈良時代から平安時代にわたって東北地方の日本海側（出羽国）に築かれた大規模な地方官庁の遺跡で、古代の政治・軍事・文化の中心地でした。

天平5年（733）に、山形県の庄内地方にあった出羽守が「秋田村高清水向」に遷され、天平宝字4年（760）頃に阿支太城（秋田城）と呼ばれるようになりました。

奈良時代には出羽国の政治を行なう「國府」が置かれ、津軽（青森）・渡島（北海道）のほか、大陸の渤海国（中国東北部）など、外交や対北方交易の拠点としても重要な役割を果たしていましたと考えられています。

昭和14年に、遺跡の重要性が認められて国の史跡に指定されました。



市民のみなさんによる地域の文化財・文化施設をもっと身近に感じてもらいたい、文化財イラストマップを作成しました。

マップ作成のためのワークショップでは、23名の市民のみなさんが実際にまちを歩いて情報を集めました。このマップには、ワークショップ参加者が注目したもののコメントなどを盛り込んであります。

このマップを持ってまちを歩き、地域の文化財・文化施設を楽しんでください。

秋田城跡調査事務所

◇秋田市寺内焼山9番6号 ☎018-845-1837

秋田城跡出土品収蔵庫

◇秋田市寺内大畑4番1号 ☎018-846-9595

◇開館時間 9:00～16:00（入館は15:30まで）

休館日 冬期間（12月1日～3月31日）

入館料 無料

秋田市観光案内所（秋田駅構内） ☎018-832-7941
(財)秋田観光コンベンション協会 ☎018-824-8686

編集・発行:秋田市教育委員会 文化振興室

秋田市山王二丁目1番53号 山王21ビル4階

電話番号 018-866-2246 FAX番号 018-866-2252

協力:寺内地区市民憲章推進協議会 石井謹（第1回ワークショップ）

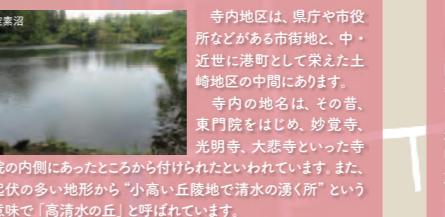
寺内地区内連絡協議会 米田次男（第2回ワークショップ）

印刷:秋田活版印刷株式会社

イラスト:小西由紀子

発行日 平成25年3月

寺内について



寺内地区は、県庁や市役所などがある市街地と、中・近世に港町として栄えた土崎地区の中間にあります。寺内の地名は、その昔、東門院をはじめ、妙覚寺、光明寺、大悲寺といった寺院の内側にあったところから付けられたといわれています。また、起伏の多い地形から「小高い丘陵地で清水の湧く所」という意味で「高清水の丘」と呼ばれます。

古くから枯れることなく湧き続ける高清水温泉、木々に囲まれ神秘的な雰囲気がただよう空素沼、地域の人たちの生活を見守り続ける市内最古といわれる巨木の旭し木など、豊かな水と緑に彩られた地域です。

また、現在も発掘調査が続く史跡秋田城跡や、長い歴史があり地元の人たちの守護神となっている古四王神社、紀行家として名高い菅江真澄が眠るお墓など、見どころいっぱいです。



寺内のお祭り ～古四王神社例祭～

毎年5月7日と8日の2日間、古四王神社のお祭りで寺内地区は賑わいます。8日の例祭では、神様を迎えた神輿を出て町内を廻ります。途中、御旅所と呼ばれる近くの山腰で一旦休憩し巫女神楽などの祭祀が行われた後、神職や氏子たちに守られながら神輿はさらに町内を練り歩きます。

神輿行列の中では、氏子の持つ丈の長い掛け棒がひとときわ目をひきます。掛け棒は、長さ約3m、太さ約9cmほどの杉の棒に、水に溶いた米の粉を塗り付けたもので、この米粉の粘り方や落ち方によってその年の豊凶が占われるといものです。

神輿行列が奏でるゆったりとした太鼓のリズムと、「ヤンヨーヤンヨー」という独特の掛け声が和やかに響く、古式ゆかしいお祭りです。



0 50 100 200m
※200mを歩くには約2分かかります。